

第5次かつらぎ町長期総合計画策定に係る
住民ワークショップ
実施報告書

令和5年8月
かつらぎ町

目 次

1. 実施目的.....	1
2. 開催概要.....	1
3. 発表の要旨.....	2
4. 寄せられた「良いところ」と「良くないところ」について.....	10
5. 寄せられた取り組みのアイデアについて.....	11

1. 実施目的

第5次かつらぎ町長期総合計画の策定にあたって、将来のまちづくりに対する住民参画の機会を確保するとともに広く住民の声を把握し、計画に反映させるための基礎資料を得ることを目的としました。さらに、この機会をきっかけとして、今後のまちづくり人材の育成や、住民相互の協働に向けた関係構築をも視野に入れて実施したものです。加えて、事前に住民アンケート調査の結果(概要)や、先般実施した高校生ワークショップで出された意見も共有し、より良い意見聴取の場となるよう努めました。

また、ワークショップの名称については「かつらぎ“まちづくり”ワークショップ（住民ワークショップ） ～未来に誇れる“かつらぎ町”の創造に向けて～」として実施しました。

2. 開催概要

テーマ	内 容	参加者
未来に誇れる “かつらぎ町” の創造に向けて 考えよう！	【第1部】かつらぎ町の「良いところ（強み、自慢、誇り）」や「良くないところ（弱み、課題、伸びしろ）」について書き出すとともに意見交換を進め、あるべき“かつらぎ町”の将来像（キャッチコピー）について検討する。 ----- 【第2部】第1部で検討した、あるべき”かつらぎ町”の将来像を実現するために必要な取組を検討するとともに、その取組の役割分担（住民がやるのか、行政がやるのかなど）についても検討する。また、その成果を踏まえて発表会を行う。	24 人



3. 発表の要旨

(1) Aグループ

子供の声が聞こえる町



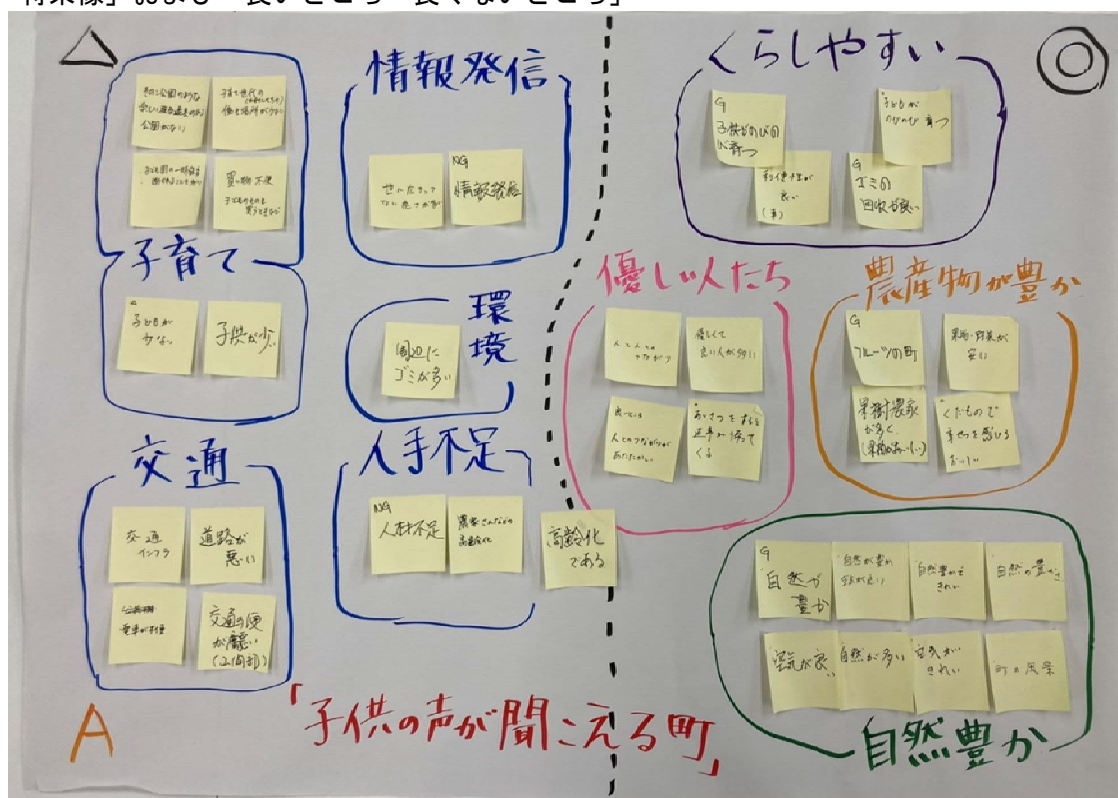
12年後の町の理想としては、「子供の声が聞こえる町」である。そうなった流れは、町の良いところも踏まえ、地域にどんな問題が出てくるかを考えた時に、環境や人手不足とか、次の子ども世代に対して子育て政策の面でサポートし切れていない、という意見が目立ったためである。さらなる問題点として交通面、そしてこの町にある魅力を伝

え切れていないという点が挙げられた。町の良さを活かしつつ、問題点を解決するための方向性を考えた末に、「子供の声が聞こえる町」というテーマに至った。

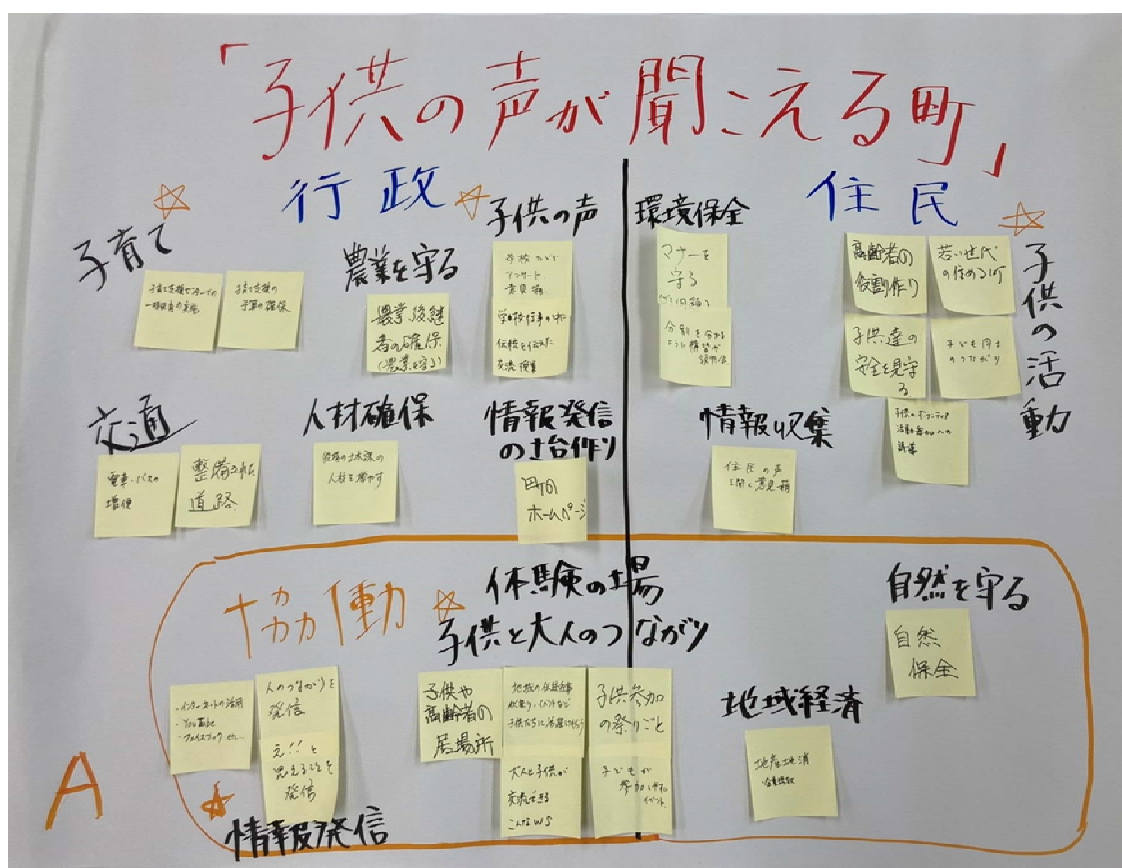
これを実現していくためには、まず子育て政策の充実が挙げられる。例えば、予算をしっかりと確立することについては行政の役割になるが、さらに一時保育の実施などの支援策を充実するなど、具体的な施策でも取り組んでいただきたい。また、子どもの声を聞こうという方向性なので、学校等でアンケートや意見箱を設置するなどして、この町がどう変わっていけば自分たちは楽しむことができるか、実際に子ども達に生の意見を聞こうというものがあった。一方で、子ども達はこういう難しい話は退屈してしまう面もあるので、文化祭のような学校行事で町の文化や伝統行事を取り入れて文化を楽しみ、そのなかで地域の現状を知って話し合いにも参加するという意見も出た。こうすることで、子どもがもっと前向きに参加でき、子どもの声を聞けるのではないかな。さらにその一環として、子どもと大人のつながる場所をつくろうという意見もあった。体験の場にしてみてもそうで、例えば子どもが参加しやすいお祭りを広げたりとか、子どもの参加しやすいイベント交流会があれば、行事を体験しつつ楽しみつつ、町の現状・問題を知ることができると思う。

情報発信という観点では、かつらぎ町を含めたこの地域に、たくさんの隠れた魅力があると思っている。人とのつながりであたたかい地域性もその一つだと思うし、緑・自然が豊かなところなどの良い点をもっと発信できれば。今は都会暮らしに疲れてしまった若者も多く、地域のあたたかさや緑の土地に癒されたい若者もいるので、外部への発信がうまくいけば、多くの若者が町に来ると思う。そうすれば町も活発化するし、子育て世代も増え、子どもの声をより多く聞けるのではないかな。子どもの活動という点では、子ども同士がつながることも大事だと思う。いまは大人同士、地域がつながり合い、固く連結している状態だと思うが、子ども同士もしっかりつながり、それを保ったまま大人になっていくことで、より固い、より長い地域のつながりができるのではないかな。子どもがしっかりとつながる場を大人がつくり、子どもの意見を聞き、将来のことを考えて成長していけば、このテーマはもとより、町全体が将来的により長く、より固く結ばれていくと思う。

①「将来像」および「良いところ・良くないところ」



② 将来像を実現するために必要な取組・役割分担



(2) Bグループ

すべての人が住みやすい町



私たちは「すべての人が住みやすい町」をテーマとした。交通の面では、コミュニティバスの不便が多かったが、回数・乗り合わせが増えてスムーズに行動できるようになった。タクシー化も加えることで、時間的な制約もなくなって便利になると思う。さらに、コミュニティバスの赤字状況をどう解消していくかについては、「コミュニティ馬車」というのをコミュニ

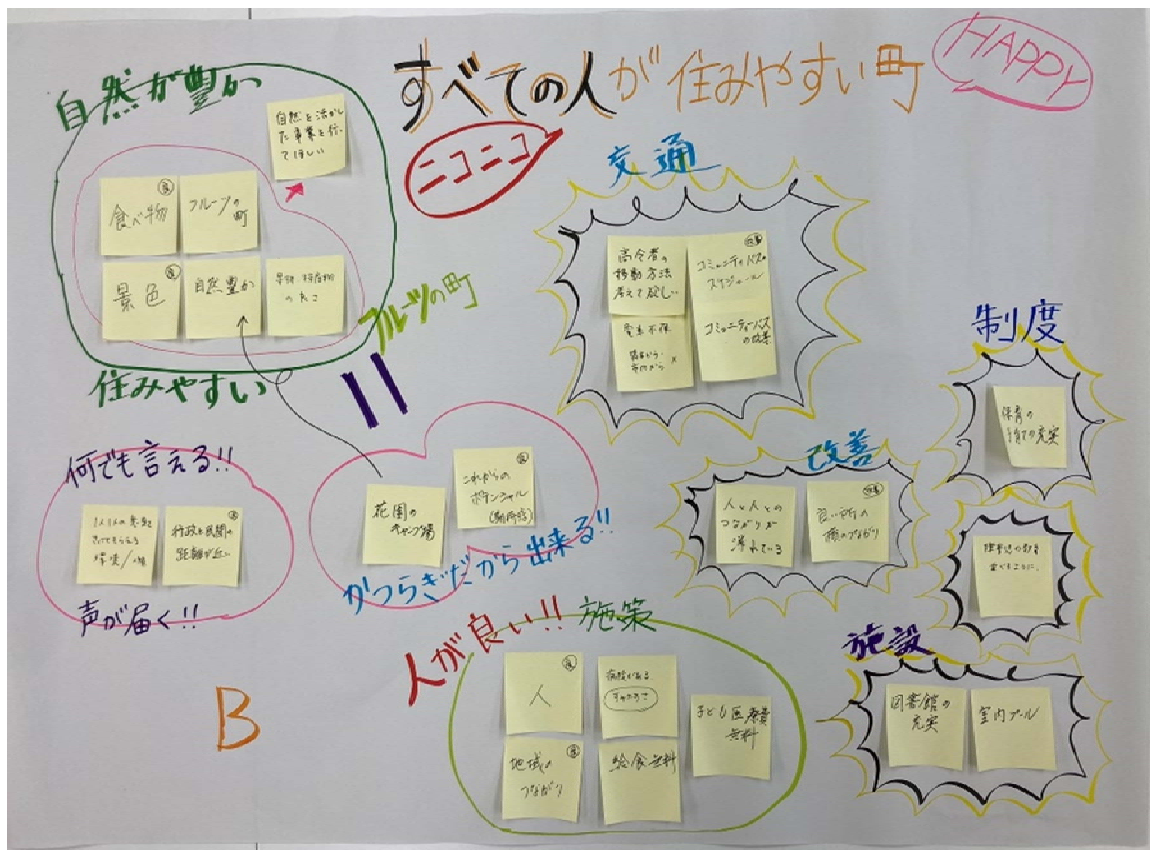
ティバスとつなげて観光収入にするという案を出したい。また、交通面で行政と協働できそうなことに、ウーバーのような仕組みがある。地域の人で運転・運航し、二次・三次交通のようなものができれば。仕組みや許認可は行政、住民が運転手をするという役割分担で可能性があるように思う。

また、いろいろな人権の話になってくるが、障がいのある人も含めながら、一つの教室でみんな一緒になって学ぶ教育とか、どこにもエレベーターがあるような、バリアフリーの観点も重要だと思う。加えて、こども園の先生・教育者が充実され、それが障がい者と一緒に学べる場所としてつながっていくことも望んでいる。そしてそれが普通になること。学校運営については、協働で地域密着型が良いかと思う。たくさんの廃校を活用して地域密着型の学校を増やし、地域の人を講師になる。こうすることで実現可能性も高まると思うし、地域と地域の人とのつながりを保っていけたらと思う。子供会の充実や、快適に住めるまちであることも大事だと思う。

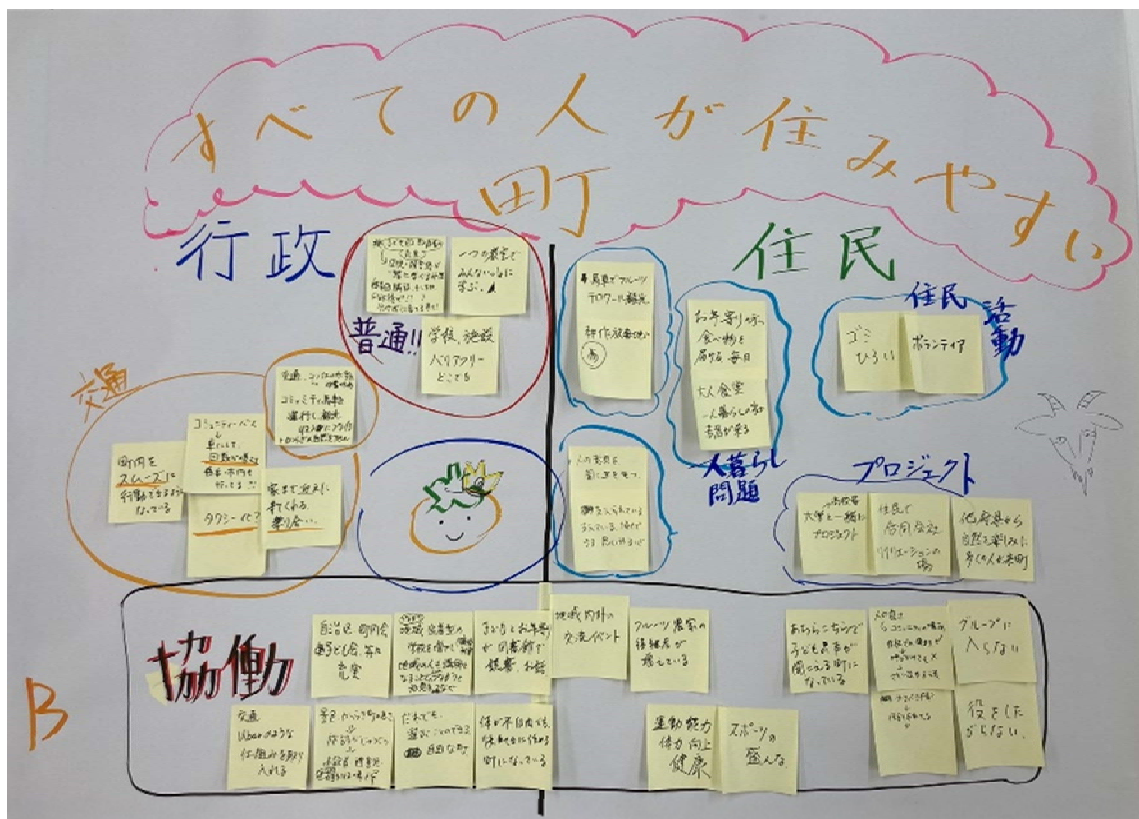
さらには交流の機会を増やして、子どもだけでなく高齢者、地域内外の老若男女みんなが楽しめる交流イベントを、地域住民が中心になって行政と協働しながらやっていけたらと思う。今日の参加者には大学生も移住者もいるので、地域と一緒にプロジェクトを進めていけたらよいのではないかな。住民として合同会社をつかって地域を盛り上げる、一人ひとりが何かをするのではなく、合同会社でやっていかないかという話も出た。こうなると、他府県からも楽しそうだということで注目を浴びそうだと思う。さらに、一人暮らしがどんどん増えていくだろうという話のなかで、こども食堂の逆の「大人食堂」のようなものができれば、というアイデアも出た。一人暮らしをされている高齢者の所に若者が来て一緒に食事をするなど、うつ病の解消にもつながるのではないかな。

他には、耕作放棄地とかを増やさないための取り組みである。せっかくのフルーツの町なので、単にフルーツではなく、フルーツの食べ比べなどをしてもらえぐらいのレベルに持っていく。多くの桃農家・柿農家があるので、産品を馬車で食堂に運ぶなどすれば、食堂の話とも重なってきて、いろいろなことが解決できるのではないかな。耕作放棄地も貸農園にするという話だけにせず、学校もつながっている、となると注目されるのではないかな。

①「将来像」および「良いところ・良くないところ」



② 将来像を実現するために必要な取組・役割分担



(3) Cグループ

帰りたい町



Cグループは、キャッチコピーを「帰りたい町」とした。一度、大学などの進学で、この町を出た人も帰って来たいと思えるまちづくりというところに着目した。出された意見としては、交通、より良い生活、それから地域交流がテーマであり、これらの点については、今後強化していく

べき点かと思う。

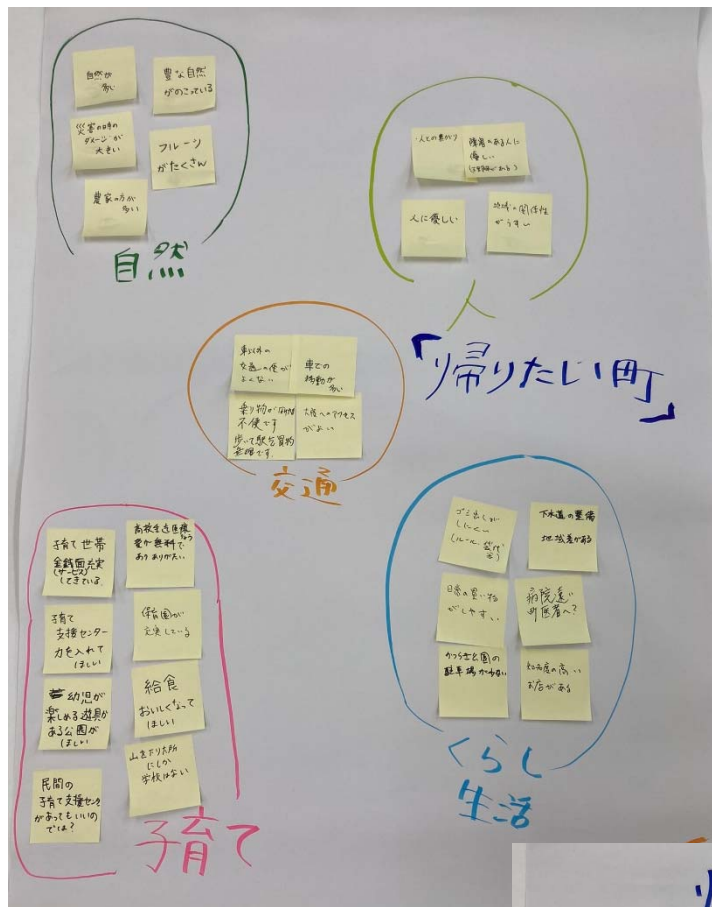
交通の面においては車の運転代行、デマンドタクシーとライドシェアについての意見が出た。ライドシェアというのは、あらかじめ目的地を、ITを用いてなんらかのかたちで共有する。車の後部座席が空いているなどの条件がそろっているとき、そして目的地がバスや電車などで行けない場所で、乗り物を一時的に共有してもらおうというものである。これなんかは地域交流のきっかけにもなると思う。

より良い生活では、学校教育の質の向上であったり、住みやすい家の造りだったりなど、様々な意見があったが、そういうシステムづくりに関しては行政の関与が必要だと感じた。その上で、住民が月一回集まる機会をつくるとか、地域交流の面が強化されると良いと思った。特に、大阪から来ている参加者なんかは、地域でのつながりが良いところだと思ったが、一方で住民の意見としては地域のエリアによっては交流が薄い点もあるということで、そこに対しては先ほどのライドシェア取組など、地域交流の強化に資するのではないかと思う。

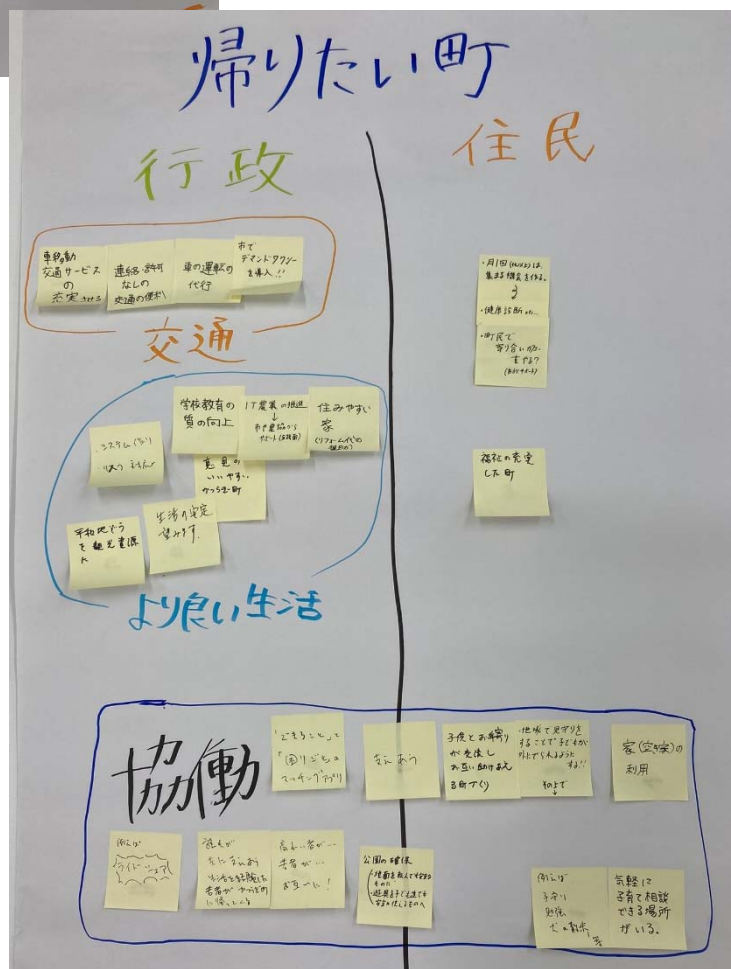
ただ、いきなり集まるとなるとリスクも伴ってくるように思うので、そこに関しては行政の関わりも重要になってくると思う。かつらぎ町の役場とか農協とかがきちんとサポートした上で住民の方々が交流をして、そのうえで自主的な活動を展開する。そうすることで若者たちが帰りたい町になるのでは、と考えた。

さらに、その地域交流を子どもの頃から体験し、味わってもらえるようにすることで、より帰りたいくなるまちになるのではないかと考えた。

①「将来像」および「良いところ・良くないところ」



② 将来像を実現するために必要な取組・役割分担



(4) Dグループ

一人暮らしの人でも安心して暮らせるまちづくり



たくさんの意見が出た中で、テーマは「一人暮らしの人でも安心して暮らせるまちづくり」に決まった。

まず、行政の方にがんばっていただきたいと思うところは、公共施設という意見で、これは一人暮らしの方でも過ごせる、住みやすい公営住宅にしてほしいとか、高齢者向けの、専用の団地をつくらしてほしいというものである。

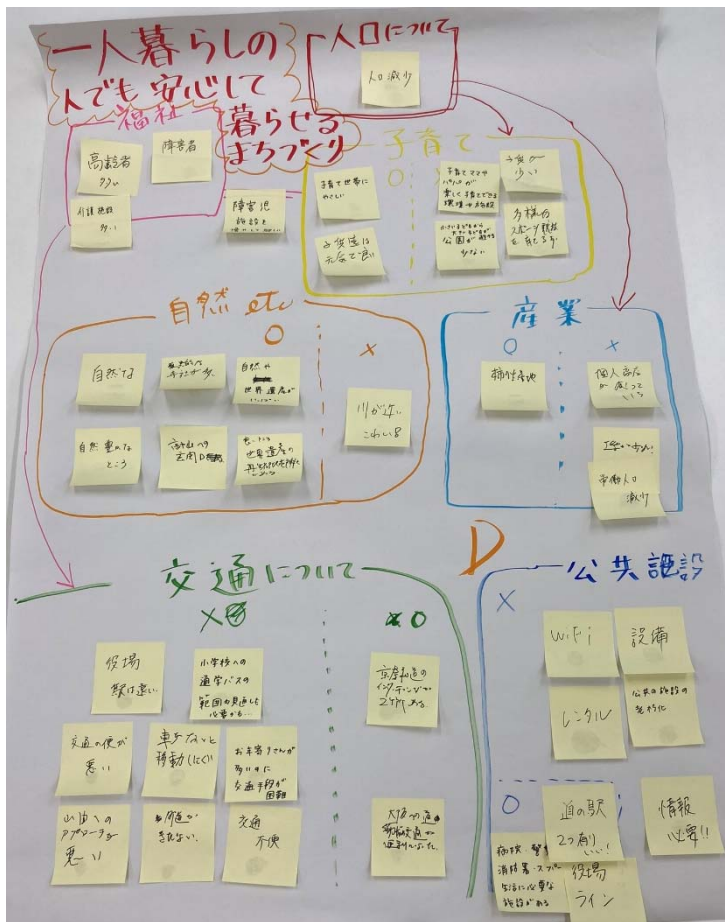
老朽化している多くの公共施設が整備され、そしてちょうどいい数になって管理が行き届くようにしてもらえたら良いなというものだった。そのなかにはもちろん、子育てについての意見も入っていたが、他のグループでも意見が出ていたように、障がい児も健常児も一緒に過ごせるような施設があれば良いなというところにもつながってくるものである。

一方で、住民にできることは何かというと、町内会も少し希薄になりつつあるなか、町内会のような身近なコミュニティを強化することで、一人暮らしの人でも安心して過ごせるようなまちづくりにつながるのではないかというものである。町内会に加入する若い世代が少なくなっているが、若い世代に対しても町内会との関係をもっと強化して、見守りし合えるようなまちづくりができないか、という提案をしたい。移住者・転入者についても、そして婚活であってもそうであるが、住民同士が見守りできるような、支え合える環境にできれば良いと思う。

協働の面では居場所づくりが大事ではないかという意見が出た。一人暮らしの人でも、たまにはたくさんの人と一緒に関わるようなコミュニティとか、子育て世代が高齢者の方と一緒に過ごせるような居場所があっても良いのではないかな。

さらに、そういう居場所づくりを協働でつくっていったら良いのではないかという話である。子ども食堂と、孤食の方とが一緒にご飯を食べられるような、食事の提供ができるような環境づくりを、協働で、官民連携しながらできたら良いなあというように、意見交換・検討を進めたものである。

①「将来像」および「良いところ・良くないところ」



② 将来像を実現するために必要な 取組・役割分担



4. 寄せられた「良いところ」と「良くないところ」について

「かつらぎ “まちづくり” ワークショップ（住民ワークショップ）」の第1部では、未来に誇れる12年後のかつらぎ町を描くために、かつらぎ町の「良いところ」と「良くないところ」について意見を出し合いながらワークを進めました。

ここでは、意見交換の際に寄せられた「良いところ」と「良くないところ」について集計することで、住民が抱えている、かつらぎ町の良いところや課題について抽出しました。

なお、子育て環境については「良いところ」「良くないところ」いずれにおいても意見が寄せられました。充実している側面と、そうではない側面をふまえ、満足度の高い環境づくりが重要であると考えられます。

◎かつらぎ町の「良いところ」については55件の意見が寄せられました。そのなかでも、「自然が豊か、空気がきれい（13件）」、「子育て環境の充実（9件）」、「人・地域のつながり（6件）」が上位を占めました。

◆かつらぎ町の「良いところ」 意見数：55件

自然が豊か、空気がきれい

…意見数：13件

- ・ 自然が豊か
- ・ 空気が良くてきれい
- ・ 自然が残っている 等

子育て環境の充実

…意見数：9件

- ・ 子どもがのびのび育つ
- ・ 子育て世帯にやさしい
- ・ 医療費・給食が無料 等

人・地域のつながり

…意見数：6件

- ・ つながりがあたたかい
- ・ 優しくて良い人が多い
- ・ あいさつが返ってくる 等

◎かつらぎ町の「良くないところ」については47件の意見が寄せられました。そのなかでも、「交通の便・移動について（16件）」、「子育て環境について（11件）」、「生活・暮らしについて（5件）」が上位を占めました。

◆かつらぎ町の「良くないところ」 意見数：47件

交通の便・移動について

…意見数：16件

- ・ 交通の便が良くない
- ・ 電車が不便、駅が遠い
- ・ 道路が悪い 等

子育て環境について

…意見数：11件

- ・ 子どもが少ない
- ・ 公園が少ない
- ・ 教育環境や施設 等

生活・暮らしについて

…意見数：5件

- ・ ゴミが多い、出しにくい
- ・ 下水道整備の地域差
- ・ 病院が遠い 等

5. 寄せられた取り組みのアイデアについて

「かつらぎ “まちづくり” ワークショップ（住民ワークショップ）」の第2部では、第1部で出された将来像を実現するための取り組みアイデアを出し合いました。

意見交換で寄せられた取り組みアイデアをカテゴリで分類するとともに、その役割分担についても取りまとめました。全部で122件の取り組みアイデアが寄せられました。なお、発表に伴う分類を尊重するとともに、ふせんに書き出す際の断片・メモも含めているものです。

子ども・子育て【21件】	役割分担
・子供参加の祭りごと ・子どもが参加しやすいイベント ・あちらこちらで子どもの声が聞こえる町になっている ・地域で見守りをする事で子どもが外にでられるようにする!! ・公園の確保（地面を転んでも安全なものに、遊具を子ども達でも安全に使えるものへ） ・気軽に子育て相談できる場所がある ・子どもたちがいきいきとし、地元を愛する子に育っている	協働
・子供のボランティア活動参加への誘導 ・若い世代の住める町 ・子ども同士のつながり ・子供達の安全を見守る	住民
・学校などでアンケート、意見箱 ・学校行事の中に伝統を伝えた交流事業 ・子育て支援センターでの一時保育の実施 ・子育て支援の予算の確保 ・子ども園、教育者の充実（園児・障害児と一緒に学べる施設（療育園隣接、もしくは同施設で!!）分けずに育てる良さ!） ・一つの教室でみんないっしょに学ぶ ・学校、施設バリアフリー どこでも ・公園の設備がととのっている ・新しい小規模幼稚園ができています ・外語教育が出来る、学校が出来る	行政
交通【15件】	役割分担
・交通、Uberのような仕組みを取り入れる ・例えばライドシェア	協働
・電車・バスの増便 ・整備された道路 ・町内をスムーズに行動できるようになっている ・コミュニティバス → 車にして、回数が増えて橋本・市内も行ってる? ・タクシー化?	行政

・交通・コミュバスの赤字を改善のため、コミュニティ馬車を運行し、収入につなげる+かつらぎの自然をアピール” ・家まで迎えに来てくれる乗り合い ・車移動、交通サービスを充実させる ・連絡・許可なしの交通の便利 ・車の運転の代行 ・町でデマンドタクシーを導入!! ・交通弱者がいなくなっている ・普通自動車乗り合わせ、町運営	
地域活動・つながり【13件】	役割分担
・地域の伝統行事、秋祭り、イベントなど子供たちに活躍してもらう ・自治区、町内会、子ども会等々充実 ・つながり 地域密着型の学校を増やし（廃校利用）地域の人も講師となることで人とのつながりと知恵を未来につなぐ ・地域内外の交流イベント ・人の良さ → コミュニティの場所 → 行政での集まり → 呼びかけても × → さそい出す方法 ・やるべき仕事？ → 役割あたえる ・グループに入らない ・役をしたがらない	協働
・ゴミひろい ・ボランティア ・町内会のような身近なコミュニティの強化 ・見守りし合える地元の人間関係 ・若者世帯の町内会参加	住民
より良い生活【7件】	役割分担
・システム作り、リスク対応 ・学校教育の質の向上 ・IT農業の推進 → 市や農協からサポート（金銭面） ・住みやすい家（リフォーム代の援助） ・平和じぞうを観光資源に ・生活の安定望みます ・意見のいいやすいかつらぎ町	行政
世代を超えたつながり【6件】	役割分担
・大人と子供が交流できるこんなWS ・子どもとお年寄りが図書館で読書、お話 ・子供とお年寄りが交流し、お互い助け合える町づくり ・高齢者が… 若者が… お互いに！ ・老人と子供達とのふれ合い場所を広げる ・子ども食堂と孤食老人の方の食事の提供	協働

公共施設など【6件】		役割分担
・平屋型町営住宅が増える ・町営団地 一人暮らしやすいように ・公共施設がちょうどいい数になって管理がゆきとどくようになっている ・西部公園内に体育館を建てる ・高齢者専用団地 ・紀ノ川河川敷の活用・整備		行政
福祉【6件】		役割分担
・介護施設 すぐ入られる??		協働
・福祉の充実した町 ・介護施設“手話”ができる人		住民
・“手話”どこでもいと安心 ・障害者でも人間平等 ・障害児 健常児も一緒に過ごせる施設ができている		行政
情報発信・情報収集【5件】		役割分担
・インターネットの活用 YouTube フェイスブック etc... ・人のつながりを発信 ・え!!と思えることを発信		協働
・住民の声を聞く意見箱		住民
・町のホームページ		行政
移住・定住、転入など【5件】		役割分担
・誰もが共に支えあう生活を経験した若者がかつらぎ町に帰ってくる		協働
・海外からの移住者が増える ・移住者が増えている ・転入者が参加しやすい地域コミュニティの確立 ・婚活の機会を作る 年齢に関係なく		住民
産業【4件】		役割分担
・地産地消 企業誘致		協働
・地元産業 農業の就労者も増加		住民
・企業団地の完成を ・企業誘致をし、働く人が増えている		行政
居場所づくり【4件】		役割分担
・子供や高齢者の居場所 ・たまり場 ・子育て世帯がいきいき子育てを楽しむ環境がととのっている ・一人暮らしでも楽しくいきいき過ごせるまちになっている		協働

観光【４件】		役割分担
	・観光でかせげる町に ・全国一のフルーツ王国 ・葛城修験道の整備をして町石道の様に皆で歩けるように	協働
	・馬車でフルーツ　テロワール観光	住民
自然【３件】		役割分担
	・自然保全	協働
	・他府県から自然を楽しみに多くの人が来町	住民
	・自然や世界遺産が観光のメインになっている	行政
支えあい【３件】		役割分担
	・「できること」と「困りごと」のマッチングアプリ ・支えあう	協働
	・支えられている、支えている、協力できる、思いやる心	住民
ひとり暮らし問題【２件】		役割分担
	・お年寄りの方へ食べ物を届ける、毎日 ・大人食堂　一人暮らしの家に若者が来る	住民
環境保全【２件】		役割分担
	・マナーを守る（ゴミ問題）	住民
	・分別を分かるように講習や説明会	行政
農業【２件】		役割分担
	・フルーツ農家の後継者が増えている	協働
	・農業、後継者の確保（農業を守る）	住民
その他【14件】		役割分担
	・景色、かつらぎ町の良さ → 施設が充実 → 高齢者・障害児みんなが働ける場所 ・だれでも選ぶことのできる自由な町 ・体が不自由でも快適に住める町になっている ・運動能力　体力　向上　健康 ・スポーツの盛んな ・家（空き家）の利用 ・例えば、子守り　勉強　犬の散歩等	協働
	・高齢者の役割作り ・高校等、大学と一緒にプロジェクト ・住民で合同会社　レクリエーションの場 ・耕作放棄地に馬 ・人の意見を聞く耳をもつ ・月１回（それ以上）は、集まる機会を作る → 健康診断 etc…　町民で寄り合いカフェをやる？（町がサポート）	住民
	・役場の土木課の人材を増やす	行政

第5次かつらぎ町長期総合計画策定に係る
住民ワークショップ
実施報告書

発行：かつらぎ町役場 企画公室 政策調整係

TEL：0736-22-0300

FAX：0736-22-6432

発行年月：令和5年8月